

日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書

WE Heraeus Physics School on "The Early Phase of Planet Formation"

渡航先—ドイツ

期 間—2008年2月18-22日

ドイツ・ボンで開催された冬の学校、WE Heraeus physics school に参加させていただきました。この冬の学校は、タイトルにあるように惑星形成の初期段階をテーマにしたものです。参加学生の人数は約60名であり、16名の世界的に有名な研究者による講義がなされました。さらに、学生によるポスター発表が講義の合間に行われ、私自身も「The evolution of the location of the snow-line in protoplanetary disks」というタイトルでポスター発表してきました。

各講義の内容は、円盤構造、ダスト成長、惑星形成など惑星形成に至るさまざまな物理過程に及び、それらに関する基本的な知識から最先端のトピックスまで詳しく紹介されていました。それぞれの講義は非常にユニークで面白いものでした。例えば光泳動に関する講義では、光泳動を教壇で実験し、光泳動の効果が強く現れるための条件を目で見て確かめることができました。5日間の講義を通して各分野の著名人の話を聞くことができ、非常に刺激的な毎日でした。

ポスター発表は毎日の講義の合間のコーヒーブレイクの時間に行われました。各発表者は、知り合った人や友人とコーヒーを飲みながら互いの研究を紹介し合ったりしていました。私のポスターも何人かの人に興味をもって見ていただき、自分の研究を他国の学生や研究者にアピールすることができたと思います。特に、自分と同じ原始惑星系円盤の温度構造を研究テーマにしているドイツ人の学生がおり、彼は自分とほとんど同じ計算手法を用いていることを知り、非常に驚きでした。彼とはお互いの計算手法や計算結果の物理的妥当

性について議論し合いました。この議論を通して、自分の研究テーマにおける他国の学生のレベルを知ることができ、他の研究者に負けないう自分の研究をより発展させていこうという思いを新たにしました。

また、この学校に参加する目的の一つであった、Dullemond 博士に会うことができました。彼は、私の研究で用いている計算アルゴリズムの開発者であり、原始惑星系円盤の進化の研究における世界的に有名な研究者です。彼に私のポスターを紹介し、私の研究内容をアピールすることができました。彼は私の研究分野の第一線に立つ人であるので、彼と面識をもてたことは今後の研究の糧となるだろうと思います。

さらに、外国人の学生と食事をともにし、多くの友人を得たことも大きな収穫でした。彼らから各国の学生の研究生活について知ることができ、外国の若手研究者との付き合い方も学べたと思います。彼らと日本の若手研究者との違いは、彼らは英語に非常に堪能であり、英語での議論に慣れていることです。世界を相手に研究をアピールしていくには英語ができなければならないと実感しました。

以上のように、ドイツの冬の学校では非常に刺激的で有意義な5日間を過ごすことができました。惑星形成についてもさることながら、これから一人前の研究者として成長していくにあたって非常に重要なことを学べたのではないかと思います。最後になりましたが、ドイツへの渡航費用の援助をいただきました早川基金およびその関係者の方々に心から深く感謝いたします。

岡 明憲 (東京工業大学 D2)